

平成28年度熊本県教育委員会指定 「生きる力」を育む研究指定校 (心の教育研究推進校) 公開授業

研究主題

よりよい生き方を見つけ、
人やふるさとつながろうとする児童の育成



近年、いじめ問題が社会の関心事となる中で、公共の精神や集団生活の向上には欠かせない規範意識の低下が指摘されてきました。こうした社会状況の下、道徳の時間の教科化が示され、子どもたちの人格を形成する上で、道徳教育の充実が一層求められています。

そこで、本校では、道徳性を養うために道徳の授業を中心に据え、問題解決的な学習や人やふるさとつながる体験的な学習など、「考え、議論する道徳」に向けた指導方法の工夫が必要と考え、本主題を設定しました。

本研究では、子どもたちがよりよく生きようとする態度を身につけるために、多様な考えに触れ、自分の生き方を見つめる場や、人と出会い、交流によって考えを深める場などを「道徳の授業」「地域との連携」「日常活動」で意図的・計画的に設定し、取り組んでまいりました。



宇土市立緑川小学校

【仮説】

自分の生活体験を振り返り、人と出会い、交流によって考えを深める場を設ければ、よりよい生き方を見つけ、人やふるさとつながろうとする児童が育つであろう。

視点1 道徳の授業づくり

授業改善と評価の工夫

二人組による質問や自分の考え方の交流（質問カード活用）



全体の場で生活体験を交流し、価値の理解を広げる活動

4 本時の学習

(1) ねらい

困っている人を助けてよかったという主人公の気持ちに共感させることを通して、自分優先の心

情より困っている人の気持ちを考えて親切な行為をしようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動（主な発問、予想される児童の心の動き）	指導上の留意点（・）評価及び評価方法	備考
導入	1 困っている人を見かけたら、どうしますか。 困っている人をみかけたら、どうしますか。	・困っている人がいても、助ける勇気や余裕がない時などの経験をふりかえる。	押絵
30 展開	○どんな時でも助ける。←1人でも? ●状況によっては、助けない。 2 資料を読んで、話し合う。 大型スーパーに向かいながら、ぼくはお兄ちゃんにどんなことを話したでしょう。 ○おじいさんが喜んでくれてよかった。 ○いいことしたな。→「どんなことかな?」 ○一生懸命手伝えば、協力してくれるんだ。 車で通り過ぎる人を見た時、どう思ったかな? ●つりざわが売り切れちゃうよ。無理してスーパーに買に行こう。 ●車、動かないよ。手伝うのやめようかな。 手伝いをしない方がよかったのでは? ○でも、助けないとどうしたくなるって気になる。 ○おじいさんが事故に合うかもしれない。 ○ずっと困ったままとかわいそう。 3 自分の生活と結び付けて考える。 ○今までわたしも人に親切にした経験があるけれど、見知らぬ人はできていませんでした。これから、困っている人を見かけたら~ ○今まで、自分のしたいことがあると、親切にすることができませんでした。今日の学習で、親切にすること、相手が喜んでくれるんだなと思いました。	・ぼくが優先したいって思って、困っている人を助けたためには、他者優先の気持ちや声をかける勇気が働くことにつなげれる。 ・本音が出た場合には否定をせず、多様な道徳的価値が出来るようにする。 ・「手伝わなければよかった」と思って対して「手伝わせない方がよかったのでは?」と聞いかけ、人への手助けはたいへんだったり、自分のしたいことを我慢したりする状況もあるけれど、それより親切にしてよろしく」という心情に共感させたい。(C-1②) ・人に親切にした経験を思い出せない児童には、親切にされた経験を思い出させ、これからの生活の実践意欲につなげたい。(C-1③) ・早く書いた児童は、二度目させる。(A-1)	押絵 学習シート 学習シート 学習シート
終末	4 児童の体験談を紹介する。 ○避難所で世話をしてくれて、助かったな。 ○自分も困っている人がいたら、助けたい。	・教えた時、多くの人たちの親切が自分たちの力になったことに触れ、価値に対する考えを広げたい。	

ねらいの明確化

導入のコンパクト化

ねらいにせまる中心発問

多面的・多角的な考え方へと導く発問

自分の生活と重ねさせる工夫

交流（友達・教師・G T）
することで「よりよい生き方」への前進

授業における学習状況と
道徳性にかかる成長の様子の把握（道徳ノート等の活用）

地域人材等の活用

【5年生】D-22（よりよく生きる喜び）

自分に降りかかってきた困難に苦しみながらも、立ち向かっていった経験のある卒業生をG Tとして招き、インタビュー形式で話を聞きました。

一度あきらめかけてもそれをのりこえ希望を持ち、再びチャレンジすることとその努力をしたときの達成感を学びました。（…中略…）ぼくも弱い心に負けず、強くなつていきたいです。（児童の感想より）



【4年生】C-16（伝統と文化の尊重）

「熊本の心」を活用し、ふるさとの伝統を守り、引き継いでいくことの大切さについて学びました。公民館長さんをG Tとして招き、ふるさとの文化を残そうとする思いを語っていただきました。



館長さんが見せてくれた太鼓の写真を見て、ぼくのじいちゃんが中心になってやっていたことが知れてよかったです。じいちゃんがそんなことをしていたのにおどろきました。（児童の感想より）

視点2 地域との連携

読み聞かせ



地域にまつわる民話の読み聞かせ

ボランティア及び保護者による読み聞かせ
(「熊本の心」の活用)



体験活動



保育園訪問・交流

地域の方々と楽しんだ栽培活動
(全校芋掘り)



地域人材の活用

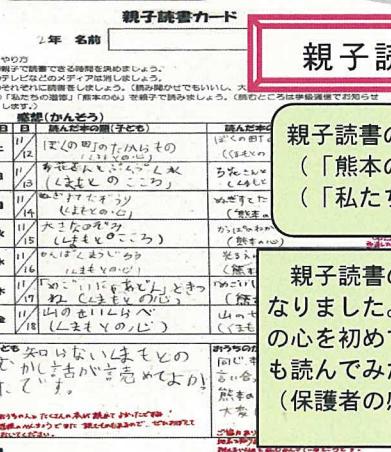


地域の方の戦争体験についての講話（平和学習）

校区探検
(ミカン畠訪問)



親子読書



親子読書の取組
(「熊本の心」の活用)
(「私たちの道徳」の活用)

親子読書のおかげで読書の秋となりました。（…中略…）熊本の心を初めて読みました。他の話も読んでみたいです。
(保護者の感想から)

視点3 日常活動

朝のボランティア活動



朝のボランティア活動
(毎週月・木曜日)

たてわり班活動



なかよしタイム（毎週木曜日の業間）

道徳コーナー



「命」についての道徳コーナー

道徳実践カード(5・6年)

★このごろの自分をりかえって、あてはまるところは
A 自分みがいて

自分で考え、判断し、責任のある行動ができた。

正直に正々堂々とした行動ができた。

やりたいことだけでなく、やらなくてはならないことに進んで取り組めた。

自分の長所を伸ばし、短所を改めることを意識した。

弱い心に負けないで最後までくじけずにがんばれた。

自分で課題を持ち、その解決に向けて努力できた。

☆具体的な出来事を書きましょう。

○一年生の□君が困っていたと声をかけた。
△持走大会の練習で走りたいといつづけられた。
△算数を計算するときに迷った。

道徳実践カード

道徳のふりかえりタイム
(毎週水曜日の朝自習)

A 自分自身
B 人との関わり

C 集団や社会との関わり
D 生命や自然、崇高なものとの関わり

について自己評価

研究の全体構想

平成28年度 研究主題 よりよい生き方を見つけ、 人やふるさとつながろうとする児童の育成

考え、議論し、学び合う

視点2 地域との連携

- 地域ボランティアによる読み聞かせ(毎週木曜日)
- 体験活動
 - ・栽培活動
 - ・介護施設や保育園の訪問と交流
- 地域人材の活用
 - ・戦争体験等の講話
 - ・校区探検、昔遊び道具づくり
- 親子読書
「熊本の心」「私たちの道徳」の活用

視点1 道徳の授業づくり

- 授業改善
 - ・ねらいの明確化
 - ・導入のコンパクト化
 - ・ねらいに迫る中心発問
 - ・学習過程の工夫
 - ・考え方の交流による道徳的価値の自覚
 - ・問題解決的な学習と体験的な学習
- 評価の工夫
 - ・道徳ノートの活用
 - ・授業における学習状況と道徳性にかかる成長の様子の把握
- 地域人材等の活用
 - ・道徳の時間でのGT

視点3 日常活動

- 朝のボランティア活動
毎週月・木曜日の朝に校舎内外を自主的に清掃
- たてわり班活動
 - ・なかよしタイム
 - ・毎日のたてわり班掃除の実施
- 道徳実践カード
 - ・日常生活のふり返り
 - ・校内放送での紹介
- 道徳コーナー
 - ・学習の足跡の掲示(各教室)
 - ・命に関する掲示等(廊下)

地域の「人」「もの」「こと」に学ぶ

学校の現状と児童の実態

地域の実態・保護者の願い

【成果と課題】 成果:○ 課題:□

〈視点1〉

- 教師が意識して道徳の授業改善に取り組んだことにより、児童が教材と自分の経験を重ねて考えたり、友達と多様な考えを交流したりできるようになってきた。
- 児童の本音を大事にしながら考えを引き出すように取り組んできたが、多様な考えを尊重するあまり価値のぶれが見られる場面があった。指導観を明確にした授業づくりに、さらに取り組んでいく必要がある。

〈視点2〉

- 保護者・地域とつながる教育活動を仕組んでいくことで、児童が地域から大切にされて育っていることを実感し、地域を大切に思う心や周りの人に感謝する心がさらに高まっている。
- 今後は地域に支えられるだけでなく、地域の中の一人として自分ができることを考えさせていく必要がある。

〈視点3〉

- 「道徳実践カード」を活用し、校内放送等で紹介し合うことで、児童が互いに認め合い、高め合おうとする雰囲気が感じられるようになってきた。
- 取組を続ける中で、日常活動の評価の重要性を改めて感じた。日常活動での評価を積み重ね、児童の実践意欲をさらに高めていきたい。